

# やまぐちっ子学力向上だより

第 1 3 8 号 R5.11.21

山口県教育庁義務教育課

第2弾

徹底活用！ CBT

～課題を課題のままにしない取組を～

県学力定着状況確認問題が終了し、これからは児童生徒及び保護者の方へ答案の返却や個人票の配付が行われていきます。復習をする中で、児童生徒がわからなかったことがわかるようになったり、できなかったことができるようになったりして、学ぶことの楽しさや達成感を感じられるようになることが大切なことだと思います。児童生徒の学ぶ意欲が高まっていけるように働きかけを進めていきましょう。

## 1 「学びなおしの場」で「わかる喜び・できる楽しさ」を味わう機会を増やし、児童生徒の学ぶ意欲を高める。

左側の問題は、4月に行われた全国学力・学習状況調査の小学校6年生の算数で、課題となった問題です。右側の問題は、今回の確認問題で出題した同様の問題です。あくまでも一例ですが、課題が改善されていないことがわかります。今回の確認問題で浮かび上がった課題をそのままにせず、学びなおしのための時間を大切にしていきたいと思います。

令和5年度全国学力・学習状況調査  
小学6年生 算数 大問2(4)

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形を作ります。

上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

令和5年度山口県学力定着状況確認問題  
小学校6年生 算数 大問5(4)

(4) 次の地図も、あいごさんの町を表しています。

道路㊸、㊹はそれぞれ平行です。

カとキの土地の面積について、どのようなことがわかりますか。次の中から1つ選び、A～Dの記号で答えましょう。また、それを選んだ理由を、言葉や数を使って答えましょう。

A: カの面積のほうが大きい。  
B: キの面積のほうが大きい。  
C: カとキの面積は等しい。  
D: カとキの面積は、このままでは比べることができない。

	正答率
山口県	18.2%
全国	20.8%



	正答率
山口県	23.7%

学びなおしの際には、『やまぐちっ子学力向上だより 137号』でもお知らせしましたが、やまぐちっ子学習プリントの活用が有効です。御活用ください。

設問番号	形式	観点	模範解答	ワークシート
1 (1)	選択	思考・判断・表現	3(和食は、食材を生かすとともに、人をつなぐ食文化であり、未来に引きついでいくべきだ。)	小6_読む08_☆やまぐち...
1 (2)	選択	思考・判断・表現	2(「はじめ」で問いを投げかけ、「中」で事例を挙げ、「終わり」でまとめている。)	小6_読む08_☆やまぐち...
1 (3)	選択	思考・判断・表現	4(㊸と㊹の文)	小5_読む08_☆やまぐち...
1 (4)	選択	思考・判断・表現	1(給食を食べるときには、食文化について知り、食材の味や季節を感じながら食べましょう。)	小4_書く09_☆やまぐち...

(CBTシステムから示される復習問題)

## 2 解答類型を分析して、児童生徒のつまずきを把握する。

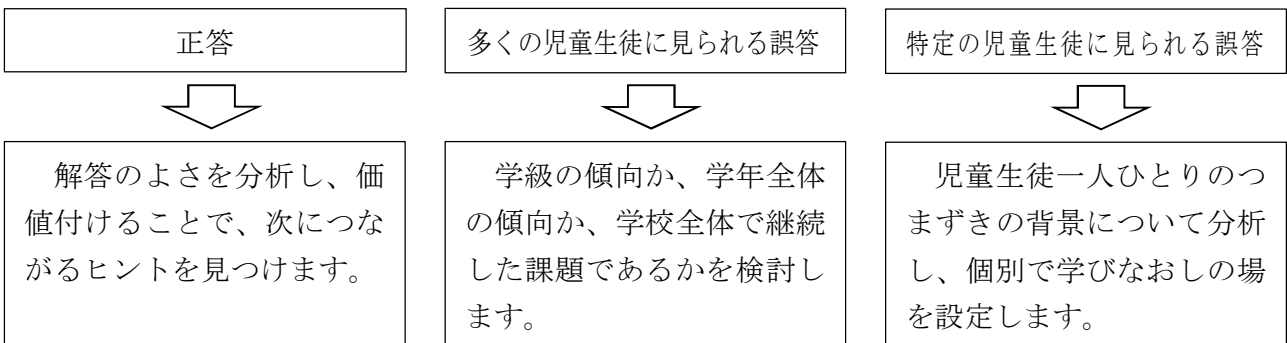
- CBTシステムの設問別一覧から、「どの設問、どの観点で正答率が低いか」に着目し、分析の対象設問及び観点を絞り込んで、分析します。

設問番号	観点	問題形式	正答率	校内平均	市町平均	県平均
1 (1)	知識・技能	選択式		1.0	0.8	0.8
1 (2)	知識・技能	選択式		1.0	0.7	0.7
1 (3)	知識・技能	短答式		1.0	0.5	0.6
1 (4)	知識・技能	選択式		0.7	0.4	0.4
1 (5)	知識・技能	短答式		1.0	0.7	0.7
1 (6)	知識・技能	選択式		1.0	0.7	0.7
2 (1)	思考・判断・表現	短答式		0.3	0.2	0.3
2 (2)	思考・判断・表現	短答式		0.0	0.2	0.1

- CBTシステムでは、下のような解答類型から、「正答」「多くの児童生徒に見られる誤答」「特定の児童生徒に見られる誤答」を確認することができます。

類型番号	解答類型	反応率	人数	正誤	
1	4 (2022年の生産台数の一番多い月と一番少ない月を比べると約40000台違う。)	校内	33.3%	1	○
		全体	67.6%	6789	○
2	3 (2022年の自動車生産台数がD社より多いのは、A社だけである。)	校内	0.0%	0	×
		全体	12.7%	1274	×
3	2 (車種1の販売台数は車種3の販売台数の2倍以上である。)	校内	66.7%	2	×
		全体	12.7%	1271	×
4	1 (2021年も2022年も6月の生産台数が一番多い。)	校内	0.0%	0	×
		全体	6.5%	653	×
0	無答	校内	0.0%	0	×
		全体	0.6%	57	×

- 児童生徒の解答状況に応じて、より効果的な取組を進めていきましょう。



## 3 クロス集計を活用して、学力向上の取組を進める。

CBTシステムの管理者画面から、クロス集計を見ることができます。クロス集計の分布に着目することで、学級の全体的な傾向を把握することができます。

また、学級全体の傾向だけでなく、どの児童生徒がどこに位置しているのかも把握することが可能です。

学びなおしが必要な児童生徒の顔を思い浮かべることが、指導改善のスタートになると考えられます。

課題を課題のままにしないように、組織的な学びなおしの仕組みを作り、児童生徒の学習改善につなげていきましょう。

